



営農NEWS



果樹園へのカメムシ類の飛来に、十分注意が必要です ナシのナシヒメシンクイ第三世代幼虫の適期防除に努めてください

1. 病害虫発生予報 7 月号（県病害虫防除所）によると、ナシ、カキ、ブドウ、リンゴなどの果実を吸汁加害する**チャバネアオカメムシの予察灯への飛来数**は、6 月第 3 半旬現在、調査地点により差異があるものの、**平年よりやや多い～多い状況**となっています。

このため、今後は果樹園へ飛来して、果実を吸汁加害する恐れがありますので、常に園内を注意深く観察し、カメムシの侵入を確認したら、下記を参考に薬剤防除に努めてください。

なお、カメムシの活動は夜温が高いと活発となるため、その翌朝に園内をよく観察して飛来を確認したら、活動が鈍い早朝（又は飛来の多い夕刻）に薬剤散布を行ってください。防除薬剤は、**収穫前日数**（有袋や無袋で異なる場合があります）に**注意**して選択し、系統の異なる薬剤でローテーション散布してください。また、散布に際しては園の周囲に飛散（ドリフト）しないよう十分な注意が必要です。

表 1 果樹カメムシ類の主な防除薬剤 (令和 2 年 7 月 7 日現在)

薬剤名	ナシ	カキ	ブドウ	リンゴ	分類	参考防除例での記載状況
MR. ジョーカー水和剤	○	○		○	3A	ナシ、カキ、リンゴに記載あり
テルスターフロアブル	○	○		○		
ロディー水和剤	○	○		○		
スカウトフロアブル	○	○		○		
スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	○	4A	カキ、リンゴに記載あり
アクタラ顆粒水溶剤	○	○		○		
ダントツ水溶剤	○	○	○	○		
アドマイヤー水和剤	○	○				ナシに記載あり
スプラサイド水和剤	○	○		○	1B	
スミチオン水和剤 40	○	○		○		
キラップフロアブル		○		○	2B	

注) ブドウでは、果粉溶脱の恐れがありますので、薬剤使用上の注意事項などを必ず確認してください。

2. **ナシヒメシンクイ**は年間 3～4 世代を繰り返し、**ナシ**では 7～9 月の密度が最も高くなります。

病害虫発生予報 7 月号によると、7 月の発生量は平年並～やや多くなると予測され、第三世代幼虫を対象とした**防除適期**は、**7 月中旬～下旬**と予測されていますので、「赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例」を参考に、**確実に薬剤防除を実施**してください。

なお、ナシヒメシンクイの被害果を見つけたら園内に放置せず、速やかに圧殺や蒸し殺し、土中深く埋めるなど適切な処分を行って、次世代成虫の発生を防いでください。

薬剤防除にあたっては下記を参考に、ナシの収穫前日数に十分注意して丁寧に散布してください。

表 2 ナシのシンクイムシ類（ナシヒメシンクイ）の主な防除薬剤 (令和 2 年 7 月 7 日現在)

薬剤名	希釈倍率	使用時期 / 使用回数	分類	参考防除例に記載
MR. ジョーカー水和剤	2,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内	3A	7 月中旬
ディアナWDG	5,000～10,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	5	7 月下旬
スカウトフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	3A	8 月上旬
ロディー水和剤	1,000～1,500 倍	収穫前日まで / 2 回以内	3A	8 月中旬
エクシレルSE	2,500～5,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	28	
バリアード顆粒水和剤	2,000～4,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	4A	6 月上旬
オリオン水和剤 40	1,000 倍	収穫 3 日前まで / 2 回以内	1A	6 月下旬
ダイアジノン水和剤 34	1,000 倍	収穫 14 日前まで / 6 回以内	1B	4 月下旬
アディオオン乳剤	2,000～3,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	3A	

注) 分類欄には、IRAC コードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040